

各港で歓迎を受ける「ながら」



門司港/7月11日

門司港では、北九州市港湾空港局の片山部長らが、本船について「国際フィーダー輸送の充実はもちろん、慢性的なドライバー不足、先日の豪雨災害による国内輸送の課題解消などに貢献することを望んでいる」と述べた。



博多港/7月12日

博多港では、福岡市港湾空港局の杉村理事が「井本商運による1983年の博多港初寄港以来、35年間共に歩んできた。今日新しい歴史を刻むことが出来、大変嬉しく思う」と歓迎の辞を述べた。また、博多港埠頭の後藤常務から記念品が贈呈された。



神戸港/7月13日

神戸港では、神戸市みなと総局の堀経営担当部長が歓迎の挨拶を述べ、鮫島船長に記念盾を贈呈。阪神国際港湾の吉井副社長と安川常務が記念品を贈った。



横浜港/7月18日

横浜港では、横浜市港湾局の伊東局長が「内航コンテナ船としては最大船型で、低燃費かつ斬新なデザインの船舶の寄港は、横浜港の輸送力アップに繋がる」と期待を寄せた。また、横浜川崎国際港湾の桜井副社長から記念品が贈呈された。

